



地球的な視点をもって考えるという事

校長 高橋 実

ここのところ夏が異様に暑かったり、台風や大雨などによる災害が多かったり、異常気象と思われることが多いような気がします。遠く離れた北極の話ではなく、横浜でもやはり昔とは少し違ってきたのかな、と身をもって感じるが多くなってきました。やはり地球温暖化の影響なのだろうか、そうであればこの異常気象はどんどん進んでいくのだろうか、などと考えていくと少し不安になってきます。そんな折、国連の気候行動サミットで、スウェーデンの16歳の少女、グレタ・トゥーンベリさんが、各国の代表を前にスピーチをしたというニュースを見ました。彼女は真剣でした。怒りで涙を浮かべながら必死で訴えていました。インターネットでその演説の全文を見ました。地球温暖化はもう待たなしの状況に来ているのに、各国のリーダーが集まってする話は、お金のことや、永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかりだ、事実から目を背け続けているのに、十分にやってきた、と言えるのでしょうか、というような内容を具体的な数字をあげて、真っ直ぐに訴えかけます。地球温暖化が進み、生態系が崩れ、やがて人間がコントロールできない連鎖反応が始まるかもしれないのに、各国のリーダーは行動を起こしていない。気候変動が急激に進む転換点を越えた結果と共に生きていかなければならない若い世代は、(あなたたちが何もしないのなら)「あなたたちを絶対に許さない」と強い口調で訴えました。10年以上前に、アメリカの元副大統領だったアル・ゴアさんが警告した『不都合な真実』を知っていたのに何もしてこなかった私もグレタ・トゥーンベリさんが訴える大人の1人かと気付くと心が震えます。

ところで、グレタ・トゥーンベリさんを国連の場で演説させようとした人は誰なのだろう、と大人の良識を見る思いがしたり、グレタ・トゥーンベリさんが、地球温暖化のことを訴えているのは確かに素晴らしい事ではあるけれども、それ以上に若い世代の少女が、地球という視点で物事を捉え、考え、訴えていることこそが素晴らしいのではないかと思ったりしました。「教育こそ一番大切です」と訴えたマララ・ユスフザイさんも国連で演説したのは16歳の時でした。2人とも個人的な事よりも世の中全般のことを考え、そのための覚悟も並々ならぬものがあります。やがて世の中を変えていく影響力のある大人として活躍していくことでしょう。何も行動していない大人としての私は、そうした若い人たちの前で恥ずかしくないように生きるにはどうしたらよいか、考えるこの頃です。